

教科	芸術	科目	音楽 I	単位数	2	年次	1 年次
使用教科書	MOUSA1 (教育芸術社)						
副教材等	特になし。						

1. 担当者から生徒へのメッセージ

本校の音楽 I 授業では、「うたう」ことを核とし、「ハーモニー」について様々な角度からアプローチを行い、音楽をより深く専門的に学んでいきます。よりよい音楽表現を絶えず追求め、仲間とともに探究することは大変ではありますが、その地道な積み重ねによって一人ひとりの人生を主体的に切り拓いていくためのヒントが見つかることを期待しています。1年間楽しんで音楽を学んでいきましょう！また、学習の到達度は、主に授業で配布するワークシートや実技テスト・演奏発表で評価します。

2. 学習の到達目標

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することをめざす。

(1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。

(2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。

(3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

また本校音楽科では、他者と協働してアンサンブルに取り組むことで、以下のような資質・能力を育成したい。

① 豊かな感性 (自分や他者の小さな変化に気づくことができる・美しいものを美しいと感じる心)

② 人をいたわり思いやりの心をもつこと (チームで音楽作品を仕上げる経験を通して、互いを尊重しつつも自らの思いや考えを相手にしっかりと伝え、そのことに共感することのできる豊かな人間関係を構築する)

③ ファシリテーション能力 (リーダーシップ発揮のための中核となるスキル)

3. 評価の観点と評価方法

観点	a：知識・技能	b：思考・判断・表現	c：主体的に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造や文 化的・歴史的背景など の関わり及び音楽の多 様性について理解して いる。 ・創意工夫を生かした音 楽表現をするために必 要な技能を身に付け、歌 唱、器楽、創作で表して いる。 	音楽を形づくっている要 素や要素同士に関連を知 覚し、それらの働きを感 受しながら、知覚したこ とと感受したこととの関 わりについて考え、どの ように表すかについて表 現意図をもったり、音楽 を評価しながらよさや美 しさを自ら味わって聴い たりしている。	主体的・協働的に表現及び 鑑賞の学習活動に取り組も うとしている。
評 価 方 法	実技テスト 演奏発表 ワークシート 小テスト	実技テスト 演奏発表 ワークシート レポート	ワークシート レポート 学習に対する主体的・協働 的な取り組み（観察）

4. 学習の活動

学期	学習内容（単元・項目）
年間	年間を通して、ソルフェージュを適宜取り入れる。（視唱・視奏・聴音）
1学期	<ul style="list-style-type: none"> ・斉唱「附高校歌」 ・合唱作品を2～3曲取り上げ、合唱における基礎的なハーモニー感覚を身につけるとともに、音楽表現を深く探究するプロセスを学ぶ。 ・取り上げた合唱作品に関連した器楽、鑑賞、創作活動を適宜取り入れる。
2学期	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期での学びを発展させ、幅広い曲想かつ多様なハーモニーを味わうことのできる合唱作品を2～3曲取り上げる。 ・取り上げた合唱作品に関連した器楽、鑑賞、創作活動を適宜取り入れる。 （※ASMSA との音楽を通じた文化交流） ★1・2年音楽選択生による発表会
3学期	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数声楽アンサンブル グループで音楽表現を探究する （※PCSHS との音楽を通じた文化交流）

5. 科学のもり(SSHプログラム)との関連

- 科学的な探究方法の習得と科学的な思考力の育成
- 他者に対する表現力や他者との協働性の育成
- 異文化理解の形成と国際的な視野の獲得
- 文理や教科の枠を越えて転移可能な理解の形成
- 自ら設定した目標をやり遂げようとする責任感の育成
- 自らの成長を認知し、さらなる成長につなげる力の育成

教科	芸術	科目	音楽Ⅱ	単位数	1	年次	2年次
使用教科書	MOUSA2（教育芸術社）						
副教材等	特になし。						

1. 担当者から生徒へのメッセージ

音楽Ⅱでは1単位となり、限られた授業時間ではありますが、幅広い曲想の音楽作品を取り上げ、探究的な学びをおこないます。専門性の高い授業となりますが、「まず、やってみよう！」という気持ちを持ち、今まで学んできた音楽的な見方・考え方を働かせ、音楽活動に楽しんで取り組んでもらいたいと考えています。また、学習の到達度は、主に授業で配布するワークシートや実技テスト・演奏発表で評価します。

2. 学習の到達目標

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することをめざす。

(1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。

(2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。

(3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

音楽Ⅰで学習したことを踏まえ、より高度で豊かな表現力を学ぶ。創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な以下の技能を身につける。

- ・曲にふさわしい発声法・身体の使い方
- ・他者との調和（ハーモニー）を意識して歌う技能
- ・表現形態の特徴や表現上の効果を生かして歌う技能

（それぞれの場面における各声部の役割を把握する等のスコアリーディング）

3. 評価の観点と評価方法

観点	a：知識・技能	b：思考・判断・表現	c：主体的に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	<p>・曲想と音楽の構造や文 化的・歴史的背景など の関わり及び音楽の多 様性について理解して いる。</p> <p>・創意工夫を生かした音 楽表現をするために必 要な技能を身に付け、歌 唱、器楽、創作で表して いる。</p>	<p>音楽を形づくっている要 素や要素同士に関連を知 覚し、それらの働きを感 受しながら、知覚したこ とと感受したこととの関 わりについて考え、どの ように表すかについて表 現意図をもったり、音楽 を評価しながらよさや美 しさを自ら味わって聴い たりしている。</p>	<p>主体的・協働的に表現及び 鑑賞の学習活動に取り組 もうとしている。</p>
評 価 方 法	<p>実技テスト 演奏発表 ワークシート 小テスト</p>	<p>実技テスト 演奏発表 ワークシート レポート</p>	<p>ワークシート レポート 学習に対する主体的・協働 的な取り組み（観察）</p>

4. 学習の活動

学期	学習内容（単元・項目）
1 学期	<p>ポリフォニーとホモフォニーの響きの特徴を理解して、歌唱表現しよう</p> <p>G.F.ヘンデル作曲 オラトリオ「メサイア」より</p> <p>And he shall purify Hallelujah!</p>
2 学期 3 学期	<p>曲種に応じた発声方法を探究するため、混声四部合唱作品を取り上げる。</p> <p>取り上げた合唱作品に関連した鑑賞、創作活動を適宜取り入れる。</p> <p>★1・2年音楽選択生による発表会</p>

5. 科学のもり(SSHプログラム)との関連

<input type="checkbox"/> 科学的な探究方法の習得と科学的な思考力の育成 <input checked="" type="checkbox"/> 他者に対する表現力や他者との協働性の育成 <input type="checkbox"/> 異文化理解の形成と国際的な視野の獲得 <input type="checkbox"/> 文理や教科の枠を越えて転移可能な理解の形成 <input checked="" type="checkbox"/> 自ら設定した目標をやり遂げようとする責任感の育成 <input type="checkbox"/> 自らの成長を認知し、さらなる成長につなげる力の育成
--

教科	芸術	科目	美術 I	単位数	2	年次	1 年次
使用教科書	新高校生の美術 1 (日本文教)						
副教材等	特になし。						

1. 担当者から生徒へのメッセージ

美術は、油絵や日本画、版画、彫刻、工芸、デザインなど様々な分野があります。それぞれに材料の面白さや魅力があり、それに興味を持って作品制作に取り組んでくれると嬉しいです。課題に取り組んでいくうちに悩むこともあると思います。まずは挑戦して、次はどうしようかと試行錯誤を繰り返し、取り組んでいきましょう。また一つの課題に対して、一人ひとり違った表現をみることが出来る科目であり、その違いの多様さの面白さをぜひ味わってください！

2. 学習の到達目標

自分が思い描いた表現をするため、色彩や構図、描き方など多方面から考える力を養うことを目標とする。また自身がしたい表現をするために必要な技法や道具を選択する力をつける。他者との表現の違いに興味を持ち、よさを見つけ、自身の見方・考え方を広げることを目指す。

- (1) 美術の意義や基礎となる理論について理解を深めることを目指し、創意工夫をするための必要な知識・技能を身に付けることを目指す。
- (2) 美術に関する基礎的な理論を基盤にして、自然や生活、社会と美術との関係について考え、創造することの価値について考えることを目指す。
- (3) 芸術としての美術の意義や働きについて主体的に考察するなどして、美術を専門的に学ぼうとする態度を養うことを目指す。

3. 評価の観点と評価方法

観点	a : 知識・技能	b : 思考・判断・表現	c : 主体的に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	生徒自身が思い描いた表現を実現するため、必要な技術や技法、用具、また色彩や構図、描き方を場面に応じて選択することができる。	美術に関する基礎的な理論を基盤にして、自然や生活、社会と美術との関係について考え、創造することができる。	美術の創作活動に喜びを味わい、主体的に表現や活動を意欲的に取り組むことができる。
評 価 方 法	作品やワークシートなどの提出物	作品やワークシートなどの提出物	授業態度や課題に取り組む態度
	生徒が何を表現したいのかを確認し、それに応じた指導を行う。		

4. 学習の活動

学期	学習内容（単元・項目）
1 学期	<ul style="list-style-type: none">・ 不可能立体図形の製図・デザイン 製図用紙を用い、現実には存在できない立体を構想し、制作する。 <ul style="list-style-type: none">・ 身近な素材を用いた立体表現 身近な新聞紙などを用いて様々な立体物を表現するための課題 <ul style="list-style-type: none">・ 西洋美術史を学ぶ・鑑賞 美術の世界史上の位置づけや歴史を学び、現代までのつながりを学ぶ。
2 学期	<ul style="list-style-type: none">・ 食卓で用いる器・工芸 使うことを念頭に、どのような器があればいいかを考え、制作する。 <ul style="list-style-type: none">・ 服飾のデザイン・イラストレーション 自分の着てみたい服を、機能性や場面を構想しながらデザインする。
3 学期	<ul style="list-style-type: none">・ 日用品の静物画・絵画 身近にある日用品を絵にすることで、見え方や印象がどのように変わるかを考え、絵画表現に落とし込む。

5. 科学のもり(SSHプログラム)との関連

<input type="checkbox"/> 科学的な探究方法の習得と科学的な思考力の育成
<input type="checkbox"/> 他者に対する表現力や他者との協働性の育成
<input type="checkbox"/> 異文化理解の形成と国際的な視野の獲得
<input type="checkbox"/> 文理や教科の枠を越えて転移可能な理解の形成
<input checked="" type="checkbox"/> 自ら設定した目標をやり遂げようとする責任感の育成
<input type="checkbox"/> 自らの成長を認知し、さらなる成長につなげる力の育成

教科	芸術	科目	美術Ⅱ	単位数	1	年次	2年次
使用教科書	高校生の美術2（日本文教）						
副教材等	特になし。						

1. 担当者から生徒へのメッセージ

美術Ⅱでは、美術Ⅰで学習した知識・技能を踏まえ、表現の幅を広げ取り組んでいきましょう。課題に取り組んでいくうちに、悩むこともあると思います。まずは挑戦して、次はどうしようかと試行錯誤を繰り返し、取り組んでいてください。また一つの課題に対して、一人ひとり違った表現を見ることができる科目であり、その違いの多様さの面白さをぜひ味わってください！

2. 学習の到達目標

自分が思い描いた表現をするため、色彩や構図、描き方など多方面から考える力を養う。また自身がしたい表現をするために必要な技法や道具を選択する力をつける。他者との表現の違いに興味を持ち、よさを見つけ、自身の見方・考え方を広げることを目指す。

(1) 美術の意義や基礎となる理論について理解を深めることを目指し、創意工夫をするための必要な知識・技能を身に付けることを目指す。

(2) 美術に関する基礎的な理論を基盤にして、自然や生活、社会と美術との関係について考えたり、創造したりすることの価値について考えることを目指す。

(3) 芸術としての美術の意義や働きについて主体的に考察するなどして、美術を専門的に学ぼうとする態度を養うことを目指す。

3. 評価の観点と評価方法

観点	a：知識・技能	b：思考・判断・表現	c：主体的に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	生徒自身が思い描いた表現を実現するため、必要な技術や技法、用具、また色彩や構図、描き方を場面に応じて選択することができる。	美術に関する基礎的な理論を基盤にして、自然や生活、社会と美術との関係について考え、創造することができる。	美術の創作活動に喜びを味わい、主体的に表現や活動を意欲的に取り組むことができる。
評 価 方 法	作品やワークシートなどの提出物	作品やワークシートなどの提出物	授業態度や課題に取り組む態度
	生徒が何を表現したいのかを確認し、それに応じた指導を行う。		

4. 学習の活動

学期	学習内容（単元・項目）
1 学期	・ アナログ技法を身に付け、漫画を描こう 伝統的なアナログ漫画の技法で、日常を題材にした漫画を制作する。 ・ 張り子で仮面を作り、違う自分に変身する。 仮面をかぶることで自分の見え方がどう変わるかを意識しながら、立体表現をする。
2 学期	・ 心に残った場面を風景画にする・ 絵画 ・ 陶芸でお守りを作る・ 工芸 縄文時代の土偶について学び、粘土で作品制作をする
3 学期	・ 近代絵画史を学ぶ・ 鑑賞 20 世紀以降の絵画の歴史を学び、鑑賞する。

5. 科学のもり(SSHプログラム)との関連

- 科学的な探究方法の習得と科学的な思考力の育成
- 他者に対する表現力や他者との協働性の育成
- 異文化理解の形成と国際的な視野の獲得
- 文理や教科の枠を越えて転移可能な理解の形成
- 自ら設定した目標をやり遂げようとする責任感の育成
- 自らの成長を認知し、さらなる成長につなげる力の育成

教科	芸術	科目	書道 I	単位数	2	年次	1 年次
使用教科書	書 I (光村図書)						
副教材等	くせ字がなおるペン字練習帳 (新星出版社)						

1. 担当者から生徒へのメッセージ

書道の授業は、ただお手本をそのまま書き写すだけではありません。さまざまな作品を見たり書いたりすること、そして書のよさや価値について考えることを通して、鑑賞と表現の力を高めましょう。書道 I の授業では、過去の優れた筆跡 (古典) をまねる「臨書」を行うことで、基本的な筆づかいや表現方法について学びます。そして、自らの表現意図に基づいて作品をつくる「創作」へとつなげていきます。書くことを基点とした活動を通して、感性を高め、豊かに生きる力を育てていきましょう。

2. 学習の到達目標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。
- (3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

3. 評価の観点と評価方法

観点	a : 知識・技能	b : 思考・判断・表現	c : 主体的に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	<ul style="list-style-type: none"> ・書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解している。 ・書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表している。 	<ul style="list-style-type: none"> 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりしている。 	主体的に書の表現及び鑑賞の創造的な活動に取り組もうとしている。
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> 作品 ワークシート レポート 	<ul style="list-style-type: none"> 作品 ワークシート レポート 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート ポートフォリオ

4. 学習の活動

学期	学習内容（単元・項目）
1 学期	<p>【書写から書道へ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 芸術としての書道 ・ 文字の成り立ちと書体の変遷 ・ 用具用材と扱い方 ・ 基本姿勢 <p>【漢字の書（楷書）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 楷書の古典の鑑賞と臨書 （孔子廟堂碑・九成宮醴泉銘・雁塔聖教序・顔氏家廟碑・牛橛造像記・鄭義下碑） ・ 倣書 （2字の熟語を学習した古典の雰囲気を書く。） <p>※半切臨書作品制作（夏休み課題・「国際高校生選抜書展」に出品）</p>
2 学期	<p>【漢字の書（行書・草書・隸書・篆書）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 行書の古典の鑑賞と臨書（蘭亭序・風信帖） ・ 草書の古典の鑑賞と臨書（真草千字文） ・ 隸書の古典の鑑賞と臨書（曹全碑） ・ 篆書の古典の鑑賞と臨書（泰山刻石） ・ 漢字の書の創作と鑑賞会
3 学期	<p>【篆刻】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 姓名印の制作 （※進度調整にペン字練習帳を使用） <p>【仮名の書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 仮名の成立と種類 ・ 仮名の古筆の鑑賞と臨書（いろはうた・蓬萊切） <p>★年度末に校内作品展示会を開催予定</p>

5. 科学のもり(SSHプログラム)との関連

- | |
|---|
| <input type="checkbox"/> 科学的な探究方法の習得と科学的な思考力の育成
<input checked="" type="checkbox"/> 他者に対する表現力や他者との協働性の育成
<input type="checkbox"/> 異文化理解の形成と国際的な視野の獲得
<input type="checkbox"/> 文理や教科の枠を越えて転移可能な理解の形成
<input checked="" type="checkbox"/> 自ら設定した目標をやり遂げようとする責任感の育成
<input checked="" type="checkbox"/> 自らの成長を認知し、さらなる成長につなげる力の育成 |
|---|

教科	芸術	科目	書道Ⅱ	単位数	1	年次	2年次
使用教科書	書Ⅱ（光村図書）						
副教材等	くせ字がなおるペン字練習帳（新星出版社）						

1. 担当者から生徒へのメッセージ

書道Ⅱの授業では、書道Ⅰの授業に引き続き、さまざまな作品を見たり書いたりすることで、鑑賞と表現の力を高めていきます。そのような活動を通して、書のよさや価値について自分なりに考えたり、生活に生かしたりする力を身につけていきましょう。仮名の書に加えて漢字仮名交じりの書の創作など、紙の種類や形などにもこだわった作品づくりがメインになってきます。時間数も少ないので、各自が楽しく書に親しんでもらえたらと思います。

2. 学習の到達目標

書道の創造的な諸活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深めるとともに、書の伝統に基づき、効果的に表現するための技能を身に付けるようにする。
- (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりすることができるようにする。
- (3) 主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

3. 評価の観点と評価方法

観点	a：知識・技能	b：思考・判断・表現	c：主体的に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	<ul style="list-style-type: none"> ・書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深めている。 ・書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための技能を身に付け、表している。 	<p>書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりしている。</p>	<p>主体的に書の表現及び鑑賞の創造的な活動に取り組もうとしている。</p>
評 価 方 法	<p>作品 ワークシート レポート</p>	<p>作品 ワークシート レポート</p>	<p>ワークシート ポートフォリオ</p>

4. 学習の活動

学期	学習内容（単元・項目）
1 学期	【仮名の書】 ・ 仮名の古筆の鑑賞と臨書（高野切第三種・寸松庵色紙） ・ 仮名の書の創作 ※半切臨書作品制作（夏休み課題・「国際高校生選抜書展」に出品） ※ペン字練習帳（夏休み課題）
2 学期	【漢字の書】 ・ 篆書の古典の鑑賞と臨書（石鼓文・金文） ・ 篆書の創作 ・ 隸書の古典の鑑賞と臨書（乙瑛碑） ・ 草書の古典の鑑賞と臨書（書譜） 【漢字仮名交じりの書】 ・ 漢字仮名交じりの書の創作と鑑賞会 ※ペン字練習帳（冬休み課題）
3 学期	【漢字仮名交じりの書】 ・ 漢字仮名交じりの書の創作（絵手紙風作品・色紙作品） ★年度末に校内作品展示会を開催予定

5. 科学のもり(SSHプログラム)との関連

<input type="checkbox"/> 科学的な探究方法の習得と科学的な思考力の育成 <input checked="" type="checkbox"/> 他者に対する表現力や他者との協働性の育成 <input type="checkbox"/> 異文化理解の形成と国際的な視野の獲得 <input type="checkbox"/> 文理や教科の枠を越えて転移可能な理解の形成 <input checked="" type="checkbox"/> 自ら設定した目標をやり遂げようとする責任感の育成 <input checked="" type="checkbox"/> 自らの成長を認知し、さらなる成長につなげる力の育成
